|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2021年10～12月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2021年10～12月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－23.3で、前期より5.1ポイント増加し、２期ぶりに上昇した（図１）。

業種別にみると、製造業は－19.7（前期より2.2ポイント減）となり、２期連続して低下した。一方、非製造業は－24.6（前期より7.5ポイント増）で、２期ぶりの上昇となった。

非製造業を業種別にみると、すべての業種でＤＩは上昇した（図２）。緊急事態宣言の解除に伴い、人出が徐々に戻ってきたことにより、小売業、サービス業の増加幅が大きかった。

経営上の問題点は、建設業で「材料価格の上昇」が３期連続で１位となったが、割合はさらに増加し32.8％を占めた。製造業でも「原材料価格の上昇」が「需要の停滞」を上回り１位となった（図３）。卸売業、小売業では「仕入単価の上昇」がそれぞれ２位、３位、サービス業でも「材料等仕入単価の上昇」が３位であるが、いずれの業種でも割合が上昇しており、原材料等の仕入価格の上昇を問題とする企業割合が、幅広い業種でさらに高まった。

2022年１～３月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－11.5で、今期より11.8ポイント改善する見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第166回中小企業景況調査（2021年10-12月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第166回中小企業景況調査（2021年10-12月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第166回中小企業景況調査（2021年10-12月期）